

○文部科学省訓令第 号

文部科学省行政文書管理規則の一部を改正する訓令を次のように定める。

令和六年 月 日

文部科学大臣 盛山 正仁

文部科学省行政文書管理規則の一部を改正する訓令

文部科学省行政文書管理規則（平成二十七年文部科学省訓令第十七号）の一部を次のように改正する。

次の表により、改正前欄に掲げる規定の傍線を付した部分は、これに順次対応する改正後欄に掲げる規定の傍線を付した部分のように改め、改正前欄及び改正後欄に対応して掲げるその標記部分に二重傍線を付した規定（以下「対象規定」という。）は、改正前欄に掲げる対象規定を改正後欄に掲げる対象規定として移動し、改正前欄に掲げる対象規定で改正後欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを削り、改正後欄に掲げる対象規定で改正前欄にこれに対応するものを掲げていないものは、これを加える。

改正後	改正前
<p>(文書の作成等)            第十一条 「略」</p> <p>2 「略」</p> <p>3 歴史的緊急事態(国家・社会として記録を共有すべき歴史的に重要な政策事項であつて、社会的な影響が大きく政府全体として対応し、その教訓が将来に生かされるようなものうち、国民の生命、身体、財産に大規模かつ重大な被害が生じ、又は生じるおそれがある緊急事態をいう。)に対応するために行われた業務については、<u>軽微なものを除き、将来の教訓として極めて重要であり、保存期間満了時には原則として独立行政法人国立公文書館(以下「国立公文書館」という。)</u>へ移管する文書として、記録を作成するものとする。</p> <p>4 「略」</p> <p>(行政文書ファイル管理簿への記載)            第二十条 「略」</p> <p>2 「略」</p> <p>3 文書管理者は、保存期間が満了した行政文書ファイル等について、<u>国立公文書館に移管し、又は廃棄した場合、当該行政文書ファイル等に関する行政文書ファイル管理簿の記載を削除するとともに、その名称、移管日又は廃棄日等について、総括文書管理者が調製した移管・廃棄簿に記載しなければならない。</u></p>	<p>(文書の作成等)            第十一条 「同上」</p> <p>2 「同上」</p> <p>3 歴史的緊急事態(国家・社会として記録を共有すべき歴史的に重要な政策事項であつて、社会的な影響が大きく政府全体として対応し、その教訓が将来に生かされるようなものうち、国民の生命、身体、財産に大規模かつ重大な被害が生じ、又は生じるおそれがある緊急事態をいう。)に<u>政府全体として対応する会議その他の会合</u>については、<u>将来の教訓として極めて重要であり、記録を作成するものとする。</u></p> <p>4 「同上」</p> <p>(行政文書ファイル管理簿への記載)            第二十条 「同上」</p> <p>2 「同上」</p> <p>3 文書管理者は、保存期間が満了した行政文書ファイル等について、<u>独立行政法人国立公文書館(以下「国立公文書館」という。)</u>に移管し、又は廃棄した場合は、<u>当該行政文書ファイル等に関する行政文書ファイル管理簿の記載を削除するとともに、その名称、移管日又は廃棄日等について、総括文書管理者が調製した移管・廃棄簿に記載しなければならない。</u></p>

<p>6 [略]</p> <p>5 [略]</p>	<p>(保存期間が満了したときの措置)</p> <p>第二十一条 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>3 総括文書管理者は、前項の確認を行う際には国立公文書館の専門的技術的助言を求めるものとし、助言の内容に沿って、文書管理者は第一項の措置の変更等の必要な対応を行うものとする。ただし、保存期間三年以下の行政文書ファイル等については、当該助言を求めることなく前項の確認を行えることとし、確認後、保存期間満了時の措置に従って、適宜第二十三条第二項の内閣府への協議又は移管に必要な手続を行うものとする。</p> <p>(移管又は廃棄)</p> <p>第二十三条 [略]</p> <p>2 [略]</p> <p>3 [略]</p> <p>4 文書管理者は、第一項の規定により移管する行政文書ファイル等に、法第十六条第一項第一号に掲げる場合に該当するものとして国立公文書館において利用の制限を行うことが適切であると認める場合には、総括文書管理者の同意を得た上で、国立公文書館に意見を提出しなければならない。その場合には、利用制限を行うべき情報が含まれている旨及び利用制限を行うべき理由について、記載するものとする。なお、利用請求に際し、国立公文書館からの確認があった場合は、必要な対応を行うものとする。</p>
<p>6 [同上]</p> <p>5 [同上]</p>	<p>(保存期間が満了したときの措置)</p> <p>第二十一条 [同上]</p> <p>2 [同上]</p> <p>3 総括文書管理者は、前項の確認を行う際には国立公文書館の専門的技術的助言を求めるものとし、助言の内容に沿って、文書管理者は第一項の措置の変更等の必要な対応を行うものとする。</p> <p>(移管又は廃棄)</p> <p>第二十三条 [同上]</p> <p>2 [同上]</p> <p>3 [同上]</p> <p>4 文書管理者は、第一項の規定により移管する行政文書ファイル等に、法第十六条第一項第一号に掲げる場合に該当するものとして国立公文書館において利用の制限を行うことが適切であると認める場合には、総括文書管理者の同意を得た上で、国立公文書館に意見を提出しなければならない。その場合には、利用制限を行うべき箇所及びその理由について、具体的に記載するものとする。</p>

別表第一 行政文書の保存期間基準

事項	業務の区分	当該業務に係る行政文書の類型（施行令別表の該当項）	保存期間	具体例
一～二十九	「略」			
備考				
一～四 「略」				
五 本表各項の第五欄に掲げる具体例は、法第四条の趣旨を踏まえ、経緯も含めた意思決定に至る過程並びに事務及び事業の実績を合理的に跡付け、又は検証する観点から作成が必要なら行政文書の例を示しているものであつて、同欄に記載の文書のみを保存すれば必要十分であることを意味するものではない。				
六 「略」				

別表第二 保存期間満了時の措置の設定基準

- 1 「略」  
2 「略」

(1) 「略」

① 別表第一に掲げられた業務に係る行政文書ファイル等の保存期間満了時の措置については、次の表（用語の定義は、別表第一の用語の意義による。）の下欄のとおりとする。

事項	業務区分	保存期間満了時の措置
一～十一 「略」		
二十 法人の権利義務の経緯	(1) 行政手続法第2条第8号ロの処分基準、同号ハの行政指導指針及び同法第6条の標準的な期間に関する立案の検討その他の重要な経緯 (2) 許認可等に関する重要な経緯	移管 以下について移管 ・運輸、郵便、電気通信事業その他の特に重要な公益事業に関するもの ・公益法人等の設立・廃止等、指導・監督等に関するもの

別表第一 行政文書の保存期間基準

事項	業務の区分	当該業務に係る行政文書の類型（施行令別表の該当項）	保存期間	具体例
一～二十九	「同上」			
備考				
一～四 「同上」				
「号を加える」				
五 「同上」				

別表第二 保存期間満了時の措置の設定基準

- 1 「同上」  
2 「同上」

(1) 「同上」

① 別表第一に掲げられた業務に係る行政文書ファイル等の保存期間満了時の措置については、次の表（用語の意義は、別表第一の用語の意義による。）の下欄のとおりとする。

事項	業務区分	保存期間満了時の措置
一～十一 「同上」		
二十 法人の権利義務の経緯	(1) 行政手続法第2条第8号ロの処分基準、同号ハの行政指導指針及び同法第6条の標準的な期間に関する立案の検討その他の重要な経緯 (2) 許認可等に関する重要な経緯	移管 以下について移管 ・運輸、郵便、電気通信事業その他の特に重要な公益事業に関するもの ・公益法人等の設立・廃止等、指導・監督等に関するもの

二十 「略」	九十 の公共事業 の実施に 関する事 項	十四 十八 「略」	三十 職員の人 事に関する 事項				職員の人 事に関する 事項			
			(4)退職手 当の支給に 関する重要 な経緯	(3)職員 の兼業の許 可に関する 重要な経緯	(2)職員 の研修の実 施に関する 計画の立案 の検討その他 の重要な経 緯	(1)人事 評価実施規 程の変更及 びその経緯	(6)国又 は行政機関 を当事者と する訴訟の 提起その他 の重要な訴 訟に関する 経緯	(5)不服 申立てに関 する審議会 等における 審査の検討 その他の重 要な経緯	(4)補助 金等の交付 （地方公共 団体に対す る交付を含 む。）に関 する重要な 経緯	(3)不利 益処分に関 する重要な 経緯
<p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総事業費が特に大規模な事業（例…百億円以上）については、事業計画の立案に関する検討、環境影響評価、事業完了報告、評価書その他の他の重要なもの</li> <li>・総事業費が大規模な事業（例…十億円以上）については、事業計画の立案に関する検討、環境影響評価、事業完了報告、評価書その他の特に重要なもの</li> </ul> <p>工事誌</p>			<p>移管</p> <p>※別表第一の備考二に掲げるものも同様とする。 （ただし、閣議等に関わるものについては移管）</p> <p>廃棄</p>				<p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令の解釈やその後の政策立案等に大きな影響を与えた事件に関するもの</li> <li>・審議会等の裁決等について年度ごとに取りまとめたもの</li> </ul> <p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令の解釈やその後の政策立案等に大きな影響を与えた事件に関するもの</li> <li>・審議会等の裁決等について年度ごとに取りまとめたもの</li> </ul> <p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金等の交付の要件に関する文書</li> <li>・補助事業等実績報告書に関するもの</li> </ul> <p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運輸、郵便、電気通信事業その他の特に重要な公益事業に関するもの</li> <li>・公益法人等及び公益信託に関するもの</li> </ul>			

二十 「同上」	九十 の公共事業 の実施に 関する事 項	十四 十八 「同上」	三十 職員の人 事に関する 事項				職員の人 事に関する 事項			
			(4)退職手 当の支給に 関する重要 な経緯	(3)職員 の兼業の許 可に関する 重要な経緯	(2)職員 の研修の実 施に関する 計画の立案 の検討その他 の重要な経 緯	(1)人事 評価実施規 程の変更及 びその経緯	(6)国又 は行政機関 を当事者と する訴訟の 提起その他 の重要な訴 訟に関する 経緯	(5)不服 申立てに関 する審議会 等における 審査の検討 その他の重 要な経緯	(4)補助 金等の交付 （地方公共 団体に対す る交付を含 む。）に関 する重要な 経緯	(3)不利 益処分に関 する重要な 経緯
<p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・総事業費が特に大規模な事業（例…百億円以上）については、事業計画の立案に関する検討、環境影響評価、事業完了報告、評価書その他の他の重要なもの</li> <li>・総事業費が大規模な事業（例…十億円以上）については、事業計画の立案に関する検討、事業完了報告、評価書その他の特に重要なもの</li> </ul> <p>工事誌</p>			<p>移管</p> <p>※別表第一の備考二に掲げるものも同様とする。 （ただし、閣議等に関わるものについては移管）</p> <p>廃棄</p>				<p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令の解釈やその後の政策立案等に大きな影響を与えた事件に関するもの</li> <li>・審議会等の裁決等について年度ごとに取りまとめたもの</li> </ul> <p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法令の解釈やその後の政策立案等に大きな影響を与えた事件に関するもの</li> <li>・審議会等の裁決等について年度ごとに取りまとめたもの</li> </ul> <p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・補助金等の交付の要件に関する文書</li> <li>・補助事業等実績報告書に関するもの</li> </ul> <p>以下について移管</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運輸、郵便、電気通信事業その他の特に重要な公益事業に関するもの</li> <li>・公益法人等及び公益信託に関するもの</li> </ul>			

二十〇二〇年	一十二	国会及び 審議会等 に関する事	(1) 国会審議（一の項から二十の項まで）に掲げるものを除く。 (2) 審議会等（一の項から二十の項まで）に掲げるものを除く。	以下について移管 ・大臣の演説に関するもの ・会期ごとに作成される想定問答 以下について移管 ・審議会その他の合議制の機関（部会、小委員会等を含む。）及び懇談会等行政運営上の会合に関するもの
--------	-----	-----------------------	--	---

② 「略」

(2) 政策単位での保存期間満了時の措置

① 「略」

(災害及び事故事件への対処)

激甚災害指定を受けた災害に関するもの、腸管出血性大腸菌O157や新型コロナウイルス感染症など大流行により社会的な影響をもたらした感染症等に関するもの、日本航空百二十三便の御巣鷹山墜落事故、ナホトカ号油流出事故など甚大な被害を始め社会や環境に大きな影響をもたらした事故に関するもの、地下鉄サリン事件（オウム真理教対策）など社会やその後の政策に大きな影響をもたらした事件に関するもの

(我が国における行政等の新たな仕組みの構築)

中央省庁等改革、不良債権処理関連施策、情報公開法や公文書管理法のように行政機関に共通して適用される法制度の創設、天皇の退位  
新たな省庁の設置等  
(国際的枠組みの創設)  
気候変動に関する京都会議関連施策、サッカーワールドカップ日韓共催、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック等  
(革新的又は先端的な技術の研究開発)

二十〇二〇年	一十二	国会及び 審議会等 に関する事	(1) 国会審議（一の項から二十の項まで）に掲げるものを除く。 (2) 審議会等（一の項から二十の項まで）に掲げるものを除く。	以下について移管 ・大臣の演説に関するもの ・会期ごとに作成される想定問答 以下について移管 ・審議会その他の合議制の機関に関するもの（部会、小委員会等を含む。）
--------	-----	-----------------------	--	---

② 「同上」

(2) 政策単位での保存期間満了時の措置

① 「同上」

(災害及び事故事件への対処)

阪神・淡路大震災関連、オウム真理教対策、病原性大腸菌O157対策、東日本大震災関連、新型コロナウイルス感染症関連等

(我が国における行政等の新たな仕組みの構築)

中央省庁等改革等  
(国際的枠組みの創設)  
気候変動に関する京都会議関連施策、サッカーワールドカップ日韓共催、二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピック等

スーパーコンピュータ、衛星技術等

〔②を削る〕

②  
〔略〕

(3) 昭和二十七年年度までに作成・取得された文書

昭和二十七年年度までに作成・取得された文書〔日本国との平和条約（昭和二十七年条約第五号。いわゆる「サンフランシスコ平和条約」）公布までに作成・取得されたものをいう。当時において行政機関の職員に作成・取得されたものに限らない。〕は、現下の行政制度と大きく異なる制度の下で作成・取得されたものであることから、我が国の来歴を知る上で重要な情報が記録された希少な文書といえるため、全て移管するものとする。

(4) 〔略〕

(5) 〔略〕

(6) 注意事項

① 「移管」とされている文書が含まれている行政文書ファイル等は全て移管することとする。ただし、まとめ直しを行った上で、改めて保存期間満了時の措置を設定することは可能とする。

② (略)

③ 保存期間満了時の措置が「廃棄」とされている行政文書ファイル等についても、1.【I】から【IV】に該当すると判断される

② 総括文書管理者は文部科学省における重要政策を定期的に検討の上公表することとし、当該重要政策に関する企画・立案から実施に至る経緯を含めた情報が記録された文書については、1の基  
本的考え方に照らして、(1)①の表で「廃棄」とされているものも  
含め、原則として移管するものとする。

③  
〔同上〕

(3) 昭和二十七年年度までに作成・取得された文書

昭和二十七年年度までに作成・取得された文書については、日本国との平和条約（昭和二十七年条約第五号。いわゆる「サンフランシスコ平和条約」）公布までに作成・取得された文書であり、1の【I】  
【III】  
【IV】に該当する可能性が極めて高いことから、原則として移管するものとする。

(4) 〔同上〕

(5) 〔同上〕

(6) 注意事項

① 「移管」とされている文書が含まれている行政文書ファイル等は全て移管することとする。

② 〔同上〕

③ 〔③を加える〕

<p>備考 表中の「」の記載及び対象規定の二重傍線を付した標記部分を除く全体に付した傍線は注記である。</p>	<p>場合には、移管すべきものである場合がある（例…直轄事業として実施される総事業費十億円未満の公共事業であっても、歴史的に重要な建造物を修繕した場合や、国会で議論され、国民の関心事項となった事柄等）。また、当初「廃棄」とした行政文書ファイル等についても、保存期間中に生じた出来事などによって歴史的重要性を帯びる可能性があり、その場合には、保存期間満了時の措置を「移管」に変更する必要がある。</p> <p>④ 移管することとされた文書に関連する広報資料については、移管文書の理解に資するため、必ず当該移管する文書を含む行政文書ファイル等に合わせてまとめ、移管することとする。</p>	<p>「④を加える」</p>
---	--	----------------



## 附 則

### (施行期日)

1 この訓令は、令和六年四月一日から実施する。

### (経過措置)

2 この訓令による改正後の文部科学省行政文書管理規則（以下「規則」という。）第二十一条第三項及び別表第二の第二項(6)の①のただし書の規定は、文書管理システムが改修された当該日の属する年度の翌年度の四月一日から施行することとする。